

# “冬”の庭に出たことありますか？



S邸 花崗岩と和瓦の調和を目指して

冬や早春の庭へ出たことがお有りだろうか？花や緑の少ない冬はともかく春先の泥濘（ぬかるみ）が、庭へ出なくなる最大の理由である。芝生を植えるのも良いアイディアの一つである。日本の芝は冬には枯れ、緑はない、それよりなによりメンテナンスが大変である。それを楽しむのが、ガーデニングの醍醐味である。その通りではありません、でも今号で施工中の庭と既に完成し

## 庭みみず通信

(有)林庭園設計事務所  
〒193-0823 東京都八王子市横川町 991-6  
Tel: 042-622-8840

再刊 VOL.9

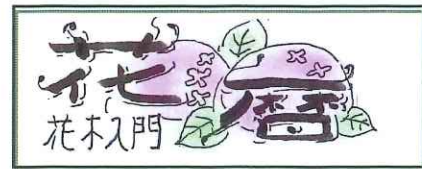


K邸 景石の植栽域を霜対策！



I邸 こんなリズム感  
は冬、早春にピッタリ

た、構築物ではあるがメンテナンスが楽な三軒の庭をご提案いたします。K邸は足を踏み入れ易い植栽域を景石を用い高く盛り上げ、歩行空間は、切り石と砂利敷きで雑草対策を兼ねました。いまだ施工中のS邸は、和を演出した、廃棄される和瓦のコバを立ての通路づくりはSDGsな取組は庭師の最も自負するところ。



タデカ科の、スカンポとギンギシを取り上げてみたい。地味な花は初夏に咲くのであるが、二種とも冬の姿は、バラの花の様に、日を浴びようとして放射状に葉を広げるバラ（ローズ）の花に見立て、この姿を「ロゼット」といいます。

スカンポはスイバという和名でも呼ばれることがある。

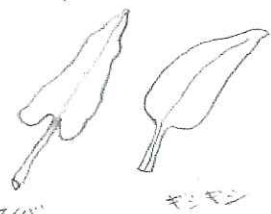
スイバはシュウ酸が多く、噛むと酸っぱい、そこで酸い葉（スイバ）となり、このスカンポは人や地方によっては、イタドリを指すことが、有ります。

またこの若い葉を揉んで、すり傷などにつけると「痛みが取れる」ということに因んで「イタドリ」という名が付いたとあります。

この「イタドリ」の茎は中空なので折ると「ポコン」とか「ポコッ」という音がします。そこで「スカンポ」。ギンギシは葉と葉がこすれ合うとその名の通りギンギシと音がします。

昔の唱歌に「土手のスカンポ、ジヤワ更紗」と唄われていたのを「存じだろるか？少し赤みを帯びた葉はインドネシアの型染パティックそのもの、この二種の識別は、葉の基部を見てもらいたい。スイバは矢じり

の様に尖るのに対し、ギンギシは基部に丸みがある。



## 天声樹語

今年の夏は、特に暑かった。地球温暖化を通り越して、もはや地球沸騰化と言っている程である。

こんな時季こそ、緑、特に森の存在がその有効性を問われている。なかでも保水力に於いては、ブナにかなうものはない。

なかでも白神山地のブナ林は有名です。

ブナを漢字で書くとキヘンにナシ（撫）である。森の女王と呼ばれるこの木は、建材としては向かないそう、こんな木は、木では無いと蔑まれ、そこらに、ぶん投げろが語源とされていた。この「みみず通信」も、皆様の役に立つことが少ないながら、少しでも何かのヒントにと、まさにみみずの戯言である。